

深海生物の伝え方～ウェブを利用した深海生物の情報発信～

○北田 貢・三縄 和彦・井上 麻子・山崎 秀之・根本 卓・北嶋 円・高井 純一
(新江ノ島水族館),藤岡 換太郎・三輪 哲也(JAMSTEC),KO-OHO-O 航海メンバー

昨今,深海に関する話題は,テレビ・書籍等で取り扱われ,興味があれば深海の情報を容易に取り入れることができる。水族館においては深海に力を入れている園館が増えてきており,一般の方でも貴重な深海生物の生体および標本を見ることができる。また,深海を主体とした特別展も各地で開催され,各園館ならではの方法で深海に関する話題が発信されている。当館においては,2007年夏期に深海生物展を行い,さらに分かりやすく伝えられるよう子供たちが作成した深海展示を行った。(深海の伝え方～子供ボランティアによる展示運営:北田ら BlueEarth2009)。このように深海に関する情報は,多種多様な形として発信されている。今回当館では,アウトリーチを主題とした航海に参加したので,航海で得られた成果を水族館へ来られないお客様に対しても情報を伝えることができるよう2通りの情報発信を行った。

NT10-15「博物館・水族館との広報連携航海」において相模湾三浦海底谷・東京海底谷の2潜航が行われた。航海中における船内生活および潜航の様子,潜航中の出来事を日誌として作成し,新江ノ島水族館ホームページ内,航海・採集日誌に当日もしくは翌日に掲載を行った。また,ハイパードルフィンのハイビジョンカメラにて得られた映像を利用し,生物場面および特異的な事象をまとめ1～3分程度の動画番組とし,YouTubeにて全4回,配信を行った。番組タイトルは以下の通りである。

- 1)深海特集1 泳ぐナマコ
- 2)深海特集2 回転するアナゴ
- 3)深海特集3 相模湾のオオグチボヤ
- 4)深海特集4 深海のお土産ホッスガイ

航海日誌については,情報の新鮮さもあり,船内での様子や体験談を身近に伝えられた。特に三浦海底谷にて発見されたオオグチボヤの多数生息やホッスガイなどこれまでの情報が少ないものに至っては,日々解明されている感じも伝えられ,調査航海に関心を抱いてもらえるものになったと思われる。また,動画については航海終了から1カ月後の配信となったが,ナマコの泳ぐ姿や,エサに食らいつくアナゴなど動きの少ない生物の貴重な動きを多くの方に見ていただけた。特に深海特集4では登場したカエルに似た岩は,アメリカをはじめとする海外にての閲覧も増え,公開一カ月で再生回数が18万を突破した。このようにホームページや動画を利用した深海の伝え方は,情報の新鮮さ,話題性,また携帯でも気軽に見られる利便性からも深海への導入に大きく効果を持つものと思われる。



話題となった「カエル岩」